

まず！やってみる！新聞

守屋もとのり後援会

2025年3月30日発行
NO.4(部内討議資料)

090-5374-1333(守屋)



突っ走りました！この1年

3月28日に3月議会が閉会しました。これで議員1年目が終わりました。元市の職員と言えども議会にはあまり関係のない現場が主職場だったので、慣例などもわからず、不適切な発言も多々ありました。しかし、私なりに1年を突っ走った感じです。評価は市民の皆さんにゆだねたいと思います。

左の写真は、先日3月9日(日)のべいふあーむマラソンの写真を娘が面白がって加工して送ってくれました。身近な目標を設定して準備を進め、クリアしていくこと。大会という明確な目標を設定すると、毎日のトレーニングという予定が決まり、その行動が習慣化されることが目標達成に繋がる。

後援会ホームページ



各種行事の情報は！
「よし今だ新聞」



3月議会の
質問は裏面
に掲載！



6月議会一般質問
2024年6月19日



3月議会の最終日は、役職定年を迎える部長5名と国から出向の大須賀政策部長が退任される事に伴い最後に退任をされる方々の挨拶がありました。本当にありがとうございました。その中で森山教育部長が心境を一句読まれたのが印象的でした。

「物申す 自ら鼓舞し 花咲かす」

私も今の心境を一句詠んでみました。有言実行で結果を出す決意を込めました。俳句では花＝桜となり、春の季語となります。

会派名：「みんなの笠岡」
令和7年度は会派を組みます！

議員1年目は各会派からのお誘いもなく、何もわからないので当面は1人会派で活動することにしました。

会派に所属していないから他の議員の方々の動きがわからないのかも知れませんが、慣例にとらわれない独自性の部分で自分なりに意見して来ました。この度、「むすびの会」からのお誘いもあり、2年目は会派に所属する中で新たな活路を見い出そうと考えています。会派名も「みんなの笠岡」市民の方々の多くの想いを議会に届けるという想いのネーミングになりました。真鍋議員・薮田議員と共に新しい挑戦の新年度のスタートを切りたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

笠岡の地域活動紹介！
金浦ひったかおしぐらんご保存会



3月から毎週土日練習に励む子ども達
左は筒井会長



9月議会提案の農村RMO
新山地区で来年度スタート



9月議会で提案させていただいた農村RMOについて令和7年度笠岡市新山地区で実施されることになりました。

農村RMOは農村地域における地域運営組織をつくる取組です。

新山自治会が進めていた「地域計画」を実践に移す段階として「農地保全」「地域資源活用」「生活支援」の3つのテーマの取組を実践するものです。3月26日に説明会が開催されました。



今年は5月24日・25日と例年より早い開催。

2月中旬に総会を開催し、3月から毎週土日には「おしぐらんご」の練習が行われています。参加する小中学生を指導する大学生から80代までのこの一体感には失われつつある地域の「絆」を感じました。

これまでの議会の一般質問項目

6月議会

- ・笠岡市の定住施策の方針
- ・まちづくり協議会の現状と課題など

9月議会

- ・地域防災について
- ・耕作放棄地の解消、農村RMOなど

12月議会

- ・財政健全化について
- ・機構改革について

3月議会

- ・財政健全化と新年度予算について

ウィキペディアタウンin日本遺産北木島
ネットの百科事典に公開



3月1日・2日の日程で北木島でウィキペディアタウンin日本遺産北木島を実施しました。このイベントは日本遺産のPRのための笠岡市の補助事業です。地元をはじめ京都・東京・名古屋等から総勢30名が北木島へ集まって、図書館等で集めた資料やこれまで発行されているパンフレットなどの情報を参考にインターネット上の百科事典である「ウィキペディア」にローカル情報をアップロードする取組です。1日目に見学した喜多嬉かきの工場見学をした内容も動画を添付して紹介しています。

この取り組みは、日本中何処でも実践できるイベントです。そして、ネット上の情報を史実に基づき、自由に更新できます。



3月議会一般質問 3月11日（火）

2月25日開会で令和7年第1回笠岡市議会定例会が開会され、3月補正予算・令和7年度新年度予算が上程されました。3月6日から代表質問・個人質問が行われ、私は11日の最後の質問者として登壇しました。今回で4回目となります。3月の一般質問は下記のとおりです。

①財政健全化について

1.聞いただけのパブリックコメントなのか？

多くの意見をどのように今後活用していくかが今後の財政健全化の明暗を分けると言っても過言ではないと思うが。

回答：丁寧な回答をした、関係団体との対話を重ねた。プラン内容の修正も行った。

2.急な財政難についての具体的な勉強会の開催を

急な財政難については具体的なデータを示しながら担当から「財政勉強会」ということで実施出来ないかと提案。

回答：市長座談会に申し込んでもらえば出向いて説明する。

3.削減対象となっている団体との「対話」は十分か？

一律カット・1/2カットと軒並み削減しており、財政健全化プランにおける削減の根拠を問われた時に説明するのは担当職員であり、その説明責任を十分果たしていない。

回答：短期間の調整で一部協議を継続する事業もあり「対話」を図る。

4.国からの補助金を活用できる事業の復活を。

国や県の補助事業を受ける事の出来る事業は積極的に補助申請をすすめ、一般財源の事業でも特別交付税措置の使えるものは使って積極的に進めて欲しいと要望。

回答：様々な財源確保について検討。引き続き事業の必要性を検討。

【私の思い】

パブリックコメントが155者（個人、団体含む）748件（本編246件、別冊502件）寄せられています。これをどうとらえるかで今後の市民の市政への参加意識が変わる。これだけ多くの人が自分事として意見を書いている。そして、提案もされている。活かせるところは市政に活かす考え方で取り組みれば大きな力となると考えます。しかし、夕張になると必要以上の「財政難」の市長のPRにより負のイメージが全国的に知れ渡ることへのマイナスをどれほど考えているのか疑問だ？

②新年度予算について

1.新年度予算の規模について

財政健全化と言いながら過去最高の予算額なのは、ごみ焼却場建設負担金・市民病院建設補助金が多い。これを除くとマイナス2.7%前年度比7億円減。

2.新年度予算における市長の目指す笠岡像

回答：第8次総合計画審議会の審議の中で新たな都市像を検討。重点施策は、第2子の保育料無料化、高校までの医療費の無料化に向けた準備費用、臭気対策。

3.国の物価高騰対策関係事業について

定期航路の燃料高騰対策、4月1日からすぐに航路事業者申請書を持って説明に上がる。他にも省エネ家電、LED化、街路灯のLED化等の補助事業を展開。2027年までに蛍光灯が段階的に製造中止になる。

4.笠岡市の観光施策の目玉について

観光資源の調査事業を実施。市内のみならず井笠広域・備後圏域の展開も視野に入れて実施。

再質：未だに計画づくりですか？コンサル丸投げで地域の実情に合わないプランとならないように地域を巻き込んだ手法でお願いしたい。

5.地域コミュニティ等について

まちづくり協議会や公共料金の見直しについて

回答：まちづくり協議会は各種団体で構成員や活動の重複を解消し、地域組織の統合再編成を進める。使用料は7年度見直し、8年度実施予定。

敬老会・市美展の今後について

回答：敬老会は温暖化による猛暑・参加者の減少・担い手の高齢化等の理由から見直す。お祝いする地区行事は地区にゆだねる。お祝いのメッセージカードを送る。

市美展は、出品数が少ないので在り方をこの期に見直す意味で中止。

再質：この時期の中止は財政が厳しいから止めると取られる。代替策とか見せ方とか工夫がいるのではないか。

回答：（市美展）今後、若い人たちがどんどん発表する場を作ること考えている。

【私の想い】

この項目では、財政健全化を実施するなかでの新年度予算です。国の物価高騰対策や新しい地方創生の補助事業も活用しながら効率的・有効な事業実施が求められます。その中で、市民の皆さんから率直に聞こえてくる声「敬老会は？」「市美展は？」も併せて質問項目に挙げさせていただきます。

コミュニティの項目で「地縁組織」「志縁組織」の違いを質問させていただきました。部長答弁でしたが、明確にご回答いただきました。

来年度からの機構改革のネーミングの変更「協働のまちづくり課」からわかりやすく「まちづくり課」に変更となっていますが、そもそも「協働」とは何ぞや！が市長には理解されていないと痛感しています。

財政健全化の中でも感じましたが、多様化するニーズに対応するために志縁組織と言われるNPO等が行政では効率的なことが出来ないの、協働する対等な相手方としてNPO等がそれを、委託とか、指定管理でかわりに担っているという事を考えれば、簡単に財政健全化で廃止とか1/2に一方的にすることは「協働」の考え方では出来ない。名実ともに「協働」を取るということは「協働」の考え方を無くすということである。

シリーズ「まちづくり考」⑤ 「あの人は島のことしかしない」

と言われる事がよくあります。でもあえてそうではないと反論もしません。何故か？「ない」から生まれる創造力と生きる力が島では大いに感じられるからです。陸地部の現在の高齢化は島の20年前とも言われます。島は過疎高齢化の20年先取り、地域課題の先進地であると思っています。そういうことは、20年早く高齢化への取組を行っており、そのノウハウの蓄積があるのです。そして、その取り組みのノウハウが必ず陸地部で活かせるという確信を持っています。

私の議員としての目指す役割として考えていることは「地域コーディネーター」です。これまでの経験を活かして地域のコーディネートが私の役割と考えて実践しています。

議員は全体の事を考えるのが仕事と言われますが、個々の地域の活性化が無くては全体の活性化も無いとも言えます。今年1年職員時代からの地域担当職員で関わっていた六島まちづくり協議会のアドバイザーを地域から要望されて引き続き関わっています。

職員時代に立ち上げた「島づくり海社」からも相談役として島の活性化のコーディネートをさせていただいています。

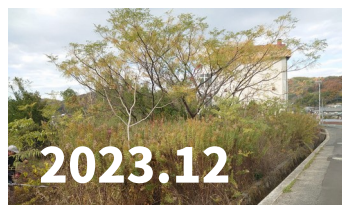
令和6年度事業で北木島で実施した「島ラボ」では、北木島の豊浦地区を舞台として、地域人材づくりの「島ラボ」を実施しました。

育成したい育成主体と地域外の塾生を募集し4回講座で地域の方々と共に地域の方々との交流で「地域の現状・課題」「地域での活動の方法」等を学びました。そして今後の活動プランを地域の方々の前で発表し、具体的な行動へと繋げていくプロジェクト。人材育成のためにはあらかじめターゲットと活動地域の方々を巻き込んだ育成プログラムそして実践活動へと繋げていく必要があります。



↑PR動画

耕作放棄地のバージョンアップ！



多面的機能支払い交付金制度を活用して農地保全をしている「よしだむら環境保全組合」2023年12月から現在に至るまで約1年3か月の変遷です。吉田小学校横の耕作放棄地を整備し、イルミネーションから、つどいの広場、ヤギに草を食べてもらい、そして念願の子どもたちもやって来ました。国の補助金ありきではありませんが、あるものは活用し新しいチャレンジにより生まれるものも・・・。

【編集後記】

3月議会の個人質問は少し迫力のないものとなりました。少し内容を欲張った感があり、最終まで焦点を絞り込めなかったのが大きな課題です。多くのパブリックコメントが市民の声であり、その中から光が見えてくると思い隅々まで目を通しました。財政危機については財政調整基金を確保することが財政健全化の目的になってる。少しでも多くの削減をする事が基金を増やす事に繋がる。笠岡市で今何が必要で、その予算を確保するために優先順位の低い事業について削減するという形がベストではないか。

それと、市民への説明責任は必要だが、必要以上の市長による「財政難」のアピールは笠岡市のイメージを落としている。SNSによるイメージダウンは今後大きな影響となることは必至と考える。

色々と12月・3月議会と個人として主張はして来たが、議会内の雰囲気も市民の声を代弁して各委員会での意見は述べてもそれを突き進めるだけの政策提言までの形にしようという雰囲気も残念ながら無かった。予算案への反対は、財政健全化への反対ではなく、そのやり方について納得出来る回答もないまま進められ、弱い立場の方々にしわ寄せが来たり、高齢者の少しの喜びも奪うものとなっている点。当分我慢してください。そして、新年度予算の目玉が臭気対策であったり、無償化への準備であったりでは到底納得できるものではないという点です。

先にも書きましたが、令和7年度からは会派を組んで市民の声を政策にして、より良い形で市民の方々にフィードバック出来るよう研究していこうと考えています。